

【タイトル】	飛びぞこないのナナミ						
【氏名】	前川 尚哉	フリガナ	マエカワ ナオヤ				
【ペンネーム】※あれば	満腹亭いなり	フリガナ	マンブクテイイナリ				
【性別】	男	【年齢】	34	歳			
【住所】	〒201-0002						
【電話番号】	09051247255	※日中連絡可能な番号をご記入ください					
【メールアドレス】	starwars3622	@yahoo.co.jp					
【本編の総ページ数】	60	※タイトル/あらすじ/登場人物表/参考文献の各ページ除く					
【略歴】	<ul style="list-style-type: none"> 京都造形大学芸術学部映画学科映画監督コースを卒業 上京しお笑いライブやネット番組やラジオの構成作家を経験 現在は会社員をしながら趣味でシナリオ執筆 						
【過去の執筆経歴】	<ul style="list-style-type: none"> 『仇討ち』(京都造形芸術大学三回生時ゼミ制作作品。監督兼任) 『傀儡』(京都造形芸術大学四回生時卒業制作作品) 『不思議な夜』(日テレシナリオライターコンテスト 2024 一次審査通過) 『雨障』(第 25 回テレビ朝日新人シナリオ大賞一次審査通過中) 						

【あらすじ】

に絶たるな護け連オレ
戻望全。殺つをら行が・そとまも意に聞頑旦の。次ミか友ナがかすい死少たもしつ者サ
るすべて人た担れさナ谷んをで死を希い張那友帰のはら人ミ何さるつんし責分まで・ス
ナるを罪母当るれナ内な実にぬ固望たつを入り日男こもは故にともで生任かうい一ペ
ナハ知の親し。たミ誠中行しとめをナて昨の道に性そ失会自涙男のもきがら。るノン
ミチつ情のて近警をのでにた言る持ナ生年由でナにのい社殺が性ようてあない男男瀬ス
。オて状呼い衛察侮夫訪移い。つミき病衣寄ナハ純両でを出がう二みる性性ナド
ニとも酌吸たは署辱婦れすこ、ハこはてでとつミチ粹親居する料に二度ると。はをナラ
人共な量器。ハですにた。とせチと自い亡再たはオなを場るナ理説とこ言町記発ミマ
はにおでの朔チ弁る出遊をつオへ分るく会携会と男亡所こナを教行とこわ医憶見は
微最記執電田オ護誠く園しかはのののしす帶社名性くがとミ作さかにれを飛有
笑初憶行源慎こ士をわ地よくナ恐情だ親るシでをのし無に。つれな男失助飛び降な
まのが猶を之との暴しでうなナ怖けと子。ヨ大付反てくなナててかる性ら命てて崖
し崖戻予切助朔近行てナとのミかない共由ツ暴け応い男っナく落っナを助をお自るに
くにら中つは田衛ししナ提でがらさう々衣普れるにた性たミれちたナ助をり殺寸來
楽自なのた植慎豊てまミ案ナ死改と。死はでし。救。にのはて込はミけ助り殺前た
し殺い身こ物之にしいのしナぬめ生由も娘小クわ記もか男いむず。なげし
げしこでと状助声ま、元様ミなてき衣考が学ビれ憶裏を性たがのがて分損に自
に直とあに態のをうハ力々がら死るのえい校にた喪切語にそ、会らしがな気殺
崖しにつよに弁か。チな死自のこ話たる時なナ失らる自の帰社もま誰つを志。

たて夕に
。み焼向
よけか
うとう。
とハ。
思チ死
い才の
ハの直
チ温前
才もに
のり見
手にた
をも水
握う平
る少線
ナしに
ナだ沈
ミけみ
だ生ゆ
つきく

.
近田三谷松海海一登
衛中橋内浦野野ノ場
豊由香誠ハ作八瀬人
衣苗ハ5造重ナ物
6()28()子ナ表
0228()7()ミ
44()07()
()02
()4
)

ナ	八	ナ	八	八	○
ナ	重	ナ	重	重	
ミ	子	ミ	な	子	食堂
「	へ	「	び	重	
：テナ声デングメ見ナ	：ナラ奥扉『海				
すレナ）パも、ニるナ	好ナつかを海				
いビミ、「地あトユ。ミ、	きミしら開坊				
まを、あつ下るン」、ミ、	なや海け主				
せ見声のレストラン。	適席全い野ナ				
んての方をひやつひや	ツは適當に身	」	八	ナ	
す重をひやつひや	やナなおを重ミ				
い子を見るかよ：	寿司リヤタ				
まが笑るとレジ！	、タン座り決にまつ		7	0	
せんつレジ！	餃子やメニ		げ	て	
！」	にハニラン		り	く	
る奥。	バーラ		た	が	
。で	メー		八	る。	
			重	重	
			子	子	

○	○	○
寂れ	バス	海沿
唯殺振りらせ電柱店は人氣た商	止停装まつ	見後人揺れ海澄い
まる一防返して軒並の街	の軒並の街	て方、後れる沿み道
ナ営業ポつほ壁並に通り	の壁並に通り	いの後車の沿道
ミシスてしに『シャッターハイミ	ミシスてしに『シャッターハイミ	見座席に内に沿青
。てタ、い手S0食貼握S	。てタ、い手S0食貼握S	ノで一人邊に人には前
いI手S0食貼握S	いI手S0食貼握S	瀬頬人しかい前方に走
るがをOトボトボ	るがをOトボトボ	ナ杖をかい前方に走
堂つつ『立ち止ま	堂つつ『立ち止ま	ミつまつ道を走
のてて立ち止ま	のてて立ち止ま	（2）きなないお婆
前あるな立ち止ま	前あるな立ち止ま	（4）がんばさん
でるな立ち止ま	でるな立ち止ま	（）。がら海が一海
立ち止ま	立ち止ま	（）。がら海が一海
自て、	自て、	（）。がら海が一海
知る。	知る。	（）。がら海が一海

崖に打ちつける波。
風吹く断崖絶壁にやつてくるナナミ。
海を見て大きく深呼吸をする。
力バンをおろし、靴を脱ぎ、ポケツ
トからスマホと財布を取り出す。
スマホの画面には『クソ会社』から

ナナミ	「（不快な顔）」	スマホを海にぶん投げる。
ナナミ	数秒後にチャポンという音。	少しすつきりとした表情のナナミ。
ナナミ	崖の先端へ歩いて行き、恐る恐る下	ゴツゴツした岩に打ち付ける波。
ナナミ	を覗く	顔が引き攣るナナミ。
ナナミ	「（フツと一息吐き）」	「（フツと一息吐き）」
ナナミ	悟を決めたとき、強い風が吹く。	悟を決めたとき、強い風が吹く。
ナナミ	思わず身を翻すナナミ。	思わず身を翻すナナミ。
ナナミ	恐る恐るそれに近寄っていくナナミ	恐る恐るそれに近寄っていくナナミ
ナナミ	それが倒れてる若い男性だと分かる	それが倒れてる若い男性だと分かる
ナナミ	崖の方を見る。	崖の方を見る。
ナナミ	倒れている男性に目をやる。	倒れている男性に目をやる。
ナナミ	崖を見る。	崖を見る。
ナナミ	崖の方を見る。	崖の方を見る。
ナナミ	数歩崖へ踏み込むが、立ち止まり振り返り倒れている男性を見る。	数歩崖へ踏み込むが、立ち止まり振り返り倒れている男性を見る。
ナナミ	男を見る。	男を見る。
ナナミ	不服そうに男性に近寄るナナミ。	不服そうに男性に近寄るナナミ。
ナナミ	男性を見る。	男性を見る。
ナナミ	気絶したままの男性。	気絶したままの男性。
ナナミ	反応がない。そこで寝てたら風邪ひきます	反応がない。そこで寝てたら風邪ひきます
ナナミ	男性の呼吸音が聞こえる。	男性の呼吸音が聞こえる。

八作
た重デ造
よ子ブ（声）
「（か声）
（声？）」
足音。
「いやあ、ちんちくりんの女だつ
暖簾のかつた店先に近づいてくる
『海坊主』・外観

○ 食堂

ナナナ男ナ男ナ男ナ男
ナミでミミだ「ミミミ「
「す「。崖：：：
タん男え男か：ナ大怖：へこすある男あ飲ありらナあ：エ水：うナう
イで性え性？あナ丈い（？こいまナ性、まの出ミナ、」？あ：ナ：
トキを：：ミ夫：少あはまあナのはせ、すルミは
ルヨ助「まああ、でうし、？せいミ口いてこれ。ク、い
.口けたのの海すう先崖「ん」。に「」れ
キる気、のか「をで
ヨかをち携方？覗す
口、失よ帯を救く
と飛つ電見急
すびてと話て車
る降い？お悲呼
ナリる「持しひま
ナる。ちいま
ミかじ表：
.をや情あ
悩な。」あ、
な。」あ、
な。

ナ男ナ男ナ男ナ男
ミ「ミ「ミ「
「：「：「：「
タん男え男か：ナ大怖：へこすある男あ飲ありらナあ：エ水：うナう
イで性え性？あナ丈い（？こいまナ性、まの出ミナ、」？あ：ナ：
トキを：：ミ夫：少あはまあナのはせ、すルミは
ルヨ助「まああ、でうし、？せいミ口いてこれ。ク、い
.口けたのの海すう先崖「ん」。に「」れ
キる気、のか「をで
ヨかをち携方？覗す
口、失よ帯を救く
と飛つ電見急
すびてと話て車
る降い？お悲呼
ナリる「持しひま
ナる。ちいま
ミかじ表：
.をや情あ
悩な。」あ、
な。」あ、
な。

ナ男ナ男ナ男ナ男
ミ「ミ「ミ「
「：「：「：「
タん男え男か：ナ大怖：へこすある男あ飲ありらナあ：エ水：うナう
イで性え性？あナ丈い（？こいまナ性、まの出ミナ、」？あ：ナ：
トキを：：ミ夫：少あはまあナのはせ、すルミは
ルヨ助「まああ、でうし、？せいミ口いてこれ。ク、い
.口けたのの海すう先崖「ん」。に「」れ
キる気、のか「をで
ヨかをち携方？覗す
口、失よ帯を救く
と飛つ電見急
すびてと話て車
る降い？お悲呼
ナリる「持しひま
ナる。ちいま
ミかじ表：
.をや情あ
悩な。」あ、
な。」あ、
な。

驚き距離を取る。

男性	「…お腹：空いた：」	×	おにぎりにがつつく男性。
八重子	「あんた名前は？どこの人？」	×	その様子をじつと見つめる四人。
松浦	「覚えてないの？」	×	男性「…すいません。ごめんなさい」
八重子	「（ナナミに）どこで見つけたの？」	×	松浦「いや、責めてるわけじゃないけど」
ナナミ	「え？…崖のそばで。倒れているのを見つけて」	×	作造「（ナナミは）…」
八重子	「（男性に）なんも覚えてないの？持ち物は？」	×	八重子「あれまあ…記憶喪失ってやつかい？」
ナナミ	「どうするよ？この人」	×	男性「（首を傾げて、ポケットなどを探つてみるが何もなく）…すいません。ごめんなさい」
八重子	「八重子と作造と松浦、ナナミを見る。」	×	松浦「でも、そりやえらいところでなったもんだな」
ナナミ	「え？…え？」	×	八重子「じゃあこの人の面倒見てやらにやあね」
八重子	「あんた、また崖行くの？」	×	ナナミ「え？なんで私が？」
ナナミ	「…いやあ」	×	ナナミ「そりやあんたが拾つてきたんだから」
ナナミ	「…はあ？」	×	ナナミ、男性を見つめる。
ナナミ	「…はあ？」	×	男性、指についた米粒を見ている。

男性「あのぉー」
ナナミ「（無視して歩く）」
男性「あのお、すいません」
ナナミ立ち止まり怒ったよう振り返る。
ナナミ「着いて来ないでもらっていいですか？」
か？確かに助けちゃったのは私ですけど、
こうやって元気尼歩けるようになつたん
なら、一人でどこへでも行つたらいいじゃ
ないですか」
男性「：どこに行けばいいんでしょうか？」
ナナミ「病院にでも行つたらいいんじゃない
ですか？」
男性「病院：どう行けば？」
ナナミ「：ああ！もう！」

才 フ イ ス 街
都會の喧騒。
大きなビルの前で見上げているスー

男性「こうしてゐるのか一番落ち着くみたいで」
ナナミ「そうですか：変わつてますね」
男性「大丈夫ですか？」
ナナミ「え、何がですか？：大丈夫ですよ？」
大丈夫に決まつてるじゃないですか：て
ゆうか、大丈夫つてなんですか？：顔洗つ
てきます」
ナナミ、「先面台へ行く。」

○ ナナミのマンション・部屋
男性「おはようございます」
大汗をかいて目覚めるナナミ。
驚いたように横を見ると男性が体育座りしてナナミを見ている。
「おはようござります」なんで体育座

力ナミ（息切れしだし）イヤだ…イヤだ！

海に向かつて落ちていく。
着水したかと思ひきや、そこは自己啓発本の海。
動搖していると、目の前に谷内誠（28）が女性を四人従えている。
「ごめん、お前四番目」
誠（24）が振り返りナミを見ていく。
その女性・三橋香苗（24）が振り返りナミで歩いていく。
誠（24）が従えている女性のうち一人と手繋いで歩いている。
「ごめんね、ナナシ」
後でガシヤンと大きな音が聞こえ
追いかけようとするナナミだが、背後で振り返る。そこには大型トラックに衝突されペシヤンコになつた軽自動車。
大雨を見たれながら絶望の眼差しで

犯人の男が女性を人質に海を背にし
ている。前方には刑事たち。

「来るな！それ以上近づくな！」

「お願い！これ以上罪を重ねないで」

「うるさい！お前に俺の気持ちがわか
ってたまるか！」

刑事「もういいだろ？さあその人を解放しろ」

犯人「黙れ！こいつを殺して、俺も飛び降り
死んでやる！」

一時停止。

ナナミ「ナナミ、少し泣き止み頷く。	ナナミ「ナナミ、少しうわああん！」	ナナミ「ナナミ、少しうわああん！」
チヤーハンを口にする。	また大泣きするナナミ。	しかしチヤーハンは食べ続ける。
男性「男性、そんなナナミを見て微笑み、	男性「チヤーハンを食べ始める。	男性「チヤーハンを食べ始めました。いくつ
いなりにいろいろ考えてみました。いくつ	か聞きたいことがあるんですけど、よろし	か聞きたいことがあるんですけど、よろし
いですか？」	いですか？」	いですか？」
ナナミ「（食べながら）よろしいですよ。答え	ナナミ「知りませんよ、そんなの」でしよう？	男性「（食べながら）あの。今日一日覚えてな
られるか分からないですけど」	ナナミ「あ、もちろんご存知ないでしようけど。	いなりにいろいろ考えてみました。いくつ
男性「どうして僕、あの崖にいたんでしよう？」	ナナミさんなりの見解でいいので」	か聞きたいことがあるんですけど、よろし
ナナミ「あ、もちろんご存知ないでしようけど。	ナナミさんなりの見解でいいので」	いですか？」
ナナミ「え？」	ナナミ「え？」	ナナミ「え？」
ナナミ、テレビをつけて動画配信サービスを開き『2時間サスペンス』と検索してきた作品を再生する。	ナナミ、テレビをつけたかったんじゃないですか？」	ナナミ、少しうわああん！」

<p>ナ 郷 ナ 郷 ○ なしけナ田ナは田 い、どミ「ミよ「回 でへ。」：「く新想 う郷郷すアシえ髪あや卒田カ・ と田田しケヤ、りつてとウム す、に：アンい綺がていナンード る顔見」と普や麗とるろナタド 。をつかー、だうよいミーの 徐めそもそねご」ろ。席ある たらうでう（ざ）大でる にれいきで触い変並バ 近るうるもるます づナのだな】ます けナもけい： キミろ安と ス。くい思 をにやい をしよ しつま てだす </p>	<p>○ 回想・ナナミの会社 ナナラ田ナ田 初ミミス「ミ「 め（一）メ飲「一 て声あんみえノ の「トニ？瀕る 経男いだケ」、 驚性えとー今 でか：思シ夜 「ら」うヨ一 そなン一杯 うらつどう や断てどう つや？ ててつ 誘くだ われ われ </p>	<p>ナナラ田ナ田 のりっナ 中がたミ でいけ（声） 先一など、 ク番かんか を社充か し員充実 ての鄉して い田たて ナ（か）も ナ（2）も ミ6）も に声が をデス かけク にワ </p>	<p>ナナミ（声） しま「思た てこれ（声） そ入社員た こにナナミも 今までなん 並んでいり なんとなくう 並んでいり なんとかなる やれ </p>
---	---	--	---

○ 回想・ナナミのオフィス
ナナミのデスクに無言でどんどん置かれていく資料。
ナナミ「あ、あのお：」
他の社員はナナミを居ないかのよう
に無視している。
ナナミ（声）「部長の指示で他の社員から無視
量され、事務処理のような仕事ばかりが大
量に押し付けられて。心が折れそうになり
ましたけど、就活のことを考えると我慢し
ようと思いました」
ナナミ「あ、あのお：」
他の社員はナナミを居ないかのよう
に無視している。
ナナミ（声）「部長の指示で他の社員から無視
量され、事務処理のような仕事ばかりが大
量に押し付けられて。心が折れそうになり
ましたけど、就活のことを考えると我慢し
ようと思いました」
ナナミ「あ、あのお：」
他の社員はナナミを居ないかのよう
に無視している。
ナナミ（声）「部長の指示で他の社員から無視
量され、事務処理のような仕事ばかりが大
量に押し付けられて。心が折れそうになり
ましたけど、就活のことを考えると我慢し
ようと思いました」
ナナミ「あ、あのお：」
他の社員はナナミを居ないかのよう
に無視している。

ナナミ「いや（顔を遠ざける）」
郷田「ごめん。そつか。嫌か。ショックだな」
ナナミ「あ、いや、その：ごめんなさい」
ナナミ（声）「次の人から部長の態度が変わりました。どうやらこの人は部長と良い仲だみたいで」
氣まずい空気の二人。

○ 同・トイレ
座つて用を足している男性。
扉がノックされる。
男性「え、あ、入つてます」
ナナミ（声）「知つてます。そのままそこで聞いてください。ここからは端的に話すん

○回想終了・ナナミの部屋
ナナミ「このままこの人と結婚して仕事辞めて子供産んで孫見せに実家帰つたりするんだろうなあとか思つたりしてました」
男性「あのお」
男性「なんですか?」
男性「まだ続きますか?」
男性「続きますよ。だつてここで終わりだ
つか、あなたが聞いてきたから話してるんですけどよ?こんなの思い出したくもないのに」
男性「すいません。ちよつとお手洗いに行き
たくなつちやつて。ごめんなさい」
男性「どうぞ」
トイレに向かう男性。
怒つていが一人になると悲しげに
なるナナミ。

誠 「いいじやないですか」
ナナミ 「よくないです。これだと私があなた
のために使い走りさせられたことになります」
誠 「なりますかね?」
ナナミ 「なりますよ。もう食べないでください
い(ポテトの皿を自分に寄せる)」
誠 「(笑つて)結構ラリー続きましたね」
ナナミ 「: そうですね。不本意ですけど」
なんとなくポテトをシェアして食べ
始める二人。
ナナミ(声)「話してるうちになんだか居心地
良くなつて、それから何度かお会いして、
付き合うことになりました」

			男性 「：」	ナナミ「さつき言つてた彼氏が付き合つてみたらとんでもないクズで。ギャンブルする仕事は続かないわで私の貯金も使い込んだやがつて。で、ある日、帰つてきたら知らない女と彼氏が私のベッドでヤツてしまつた。で、別れ話して。そしたらあいつ五股かけて。（自嘲気味に笑い）私、四股目だつたそうです」	トイレの扉の前で体育座りしているナナミ。
			男性 「：」	ナナミ（声）「で、それから一ヶ月後くらいに大学の友達から結婚の連絡来て式に行つたんです。そしたら新郎がその彼氏でした。（笑つて）友達が一股目だつたんです」	ナナミ「職場でも居場所なくて、男でも失敗して、友達も失つて：もう全部捨てて地元に帰ろうつて思いました。で、決心して母に電話をかけたんです。そしたら知らない男性が出て。それ警察の方で。両親が乗つた車がついさつきトラックと衝突したつて。残念ながら即死ですって」
			「：」	ナナミ「職場でも居場所なくて、男でも失敗して、友達も失つて：もう全部捨てて地元に帰ろうつて思いました。で、決心して母に電話をかけたんです。そしたら知らない男性が出て。それ警察の方で。両親が乗つた車がついさつきトラックと衝突したつて。残念ながら即死ですって」	真剣な面持ちで聞いている男性。
			「！」	ナナミ「職場でも居場所なくて、男でも失敗して、友達も失つて：もう全部捨てて地元に帰ろうつて思いました。で、決心して母に電話をかけたんです。そしたら知らない男性が出て。それ警察の方で。両親が乗つた車がついさつきトラックと衝突したつて。残念ながら即死ですって」	ナナミ「葬式終わつても信じられなくて：（無理に笑い）それでもね、なんとか自分を誤魔化しながら生きてたんですよ。でも、なにかたまたまつけてたテレビの情報番組で『自杀の理由ランキング』が発表されてたんですね。そしたら：上位5位までの3つに当てはまつてて。（声が震え出し涙を拭いながら）あ、いいんだ死んで、私。つづいてはまつてて。（声が震え出し涙を拭いた）。（ここから早口で）すぐ首括つ
		×	「：」	ナナミ「葬式終わつても信じられなくて：（無理に笑い）それでもね、なんとか自分を誤魔化しながら生きてたんですよ。でも、なにかたまたまつけてたテレビの情報番組で『自杀の理由ランキング』が発表されてたんですね。そしたら：上位5位までの3つに当てはまつてて。（声が震え出し涙を拭いながら）あ、いいんだ死んで、私。つづいてはまつてて。（声が震え出し涙を拭いた）。（ここから早口で）すぐ首括つ	ナナミ「さつき言つてた彼氏が付き合つてみたらとんでもないクズで。ギャンブルする仕事は続かないわで私の貯金も使い込んだやがつて。で、ある日、帰つてきたら知らない女と彼氏が私のベッドでヤツてしまつた。で、別れ話して。そしたらあいつ五股かけて。（自嘲気味に笑い）私、四股目だつたそうです」

スー・ツ姿で靴を履くナナミ。
ハチオが食パンを齧りながら見送り
に来ている。

ナナミ「さつき渡したお金でお昼はお願
いします。家出る時は鍵忘れないようにな
ります。」

ハチオ「分かりました：あのお」
「（靴を履き終え）なんですか？」

「今日はきっと、いいことあると思
いってらっしゃいナナミさん」

「少しつれてきます。ハチօさん」

ナナミ「：どういたしまして」
ナナミもチャーハンを食べ始める。
狭い廊下で地べたに座りチャーハン

○	ナ	○	ナ 部	ナ 部	ナ 部	ナ 部	件 長
ケ ー	ナ ミ	同	な ね く す ま ナ で 長 う ナ 長 ナ ど ん け 件 長	い こ ら （ で ん い 徐 ん 「 い な で 一 あ 一 は 「 そ つ 、 増 や っ る 置 デ			
大 タ き イ い シ 通 リ ツ 沿 普 い ・ の 外 ケ 観 一 タ イ シ ヨ ツ ブ 。	ン ス リ 一 が マ 歩 息 め り て り 目 ホ き 吐 ん 返 ビ の に 出 い ね り ル 目 入 電 す て 、 ビ か を 話 。 、 就 ル ら 引 ナ を ビ 活 を 出 く ナ し ル 頑 見 て ほ ミ て の 張 上 く ど 。 い 看 つ げ る ス 板 て る ナ サ を た 。 ナ ツ ラ 殴 私 ミ と リ り 一 痛 マ が が 乱	ナ ミ い （ い な で 一 あ 一 は 「 そ つ 、 増 や っ る 置 デ	オ ナ 他 投 ナ す な の 々 。 い と ん イ そ な や い ： れ け よ え る ス フ ナ の げ ナ か や こ に そ い 思 な ヤ ん た り ？ （ 明 ？ く て テ ナ ミ ス イ ミ 社 つ ミ ！ つ と ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。 員 け 、 ク 。 だ い ト ヒ ー ト ぐ ら い ト ア ッ ク ビ ク 思 の だ な ね た 今 ボ 日 ま 考 ね 来 ミ ス 。	な ね く す ま ナ で 長 う ナ 長 ナ ど ん け 件 長			

ハチオ「ナミさん？」
歩きながらミミ。
という。スマホを見
といたずらにスマホ
今度ご飯行こジ！
久しぶりに会え
久しいから連絡が
衣から連絡が来て
中由に会えて嬉しかつた。
夕方へ田舎へ。

受付で書類を書くナナミ。
書き終わり応対している店員に渡す。
確認させてい
店員「ありがとうございます。確認させてい
ただきます」
ナナミ「はい」
書類に目を通す女性店員。
ナナミ「あ、すいません字が汚くて。それミ
ですか？」
何かに気づいた様子。
店員「もしかして、上田の一ノ瀬ナナミさん？」
ナナミ「え？ あ、はい」
ナナミ「私は、美山由衣！ ほら塩尻小で一緒だつ
た！」
店員「私は、美山由衣！ ほら塩尻小で一緒だつ
た！」
ナナミ「：由衣ちゃん？ 五年生の時に転校し
てつた？」
ナナミ「ああ、うん。大学こつちで」
由衣「そ、うなんだあ！ 携帯も無くて連絡先知
らないままだつたから：すごい偶然」
ナナミ「そ、うだ。ちよつと待つて」
ナナミが契約したスマホを持つて裏
に行く由衣。由衣を追うナナミ。

女性店員（声）「ではこちらの2台で契約ですね。こちらの書類の太枠内の項目にご記入をお願いいたします」

ナハナ	ハナ男ナハ	ハ男ハ男ハ男ハ	ナハナ	ハナ
ナチナ	きチベナつのナ	おチチのチの来チのチ	ナチ	ハベナ
ミオミ	まオるミて子ミ	母オオ子オ子たオ子オ	ミオ	オ「は
「「「	し「」	「お「そ	「「「	「仕事
そそ：歩よき	そ母知う	「さんナハじう一うでそおど男あ商後チコ？ナハ	なが	買夕×才
ううおきうつ	うさら：うさら	ナチやん緒んすう母うのた店追チオ「ナチ	ツケは	い日。笑
でで入出	と：んな	「かでさし子り街追。ツケミ	辞めた	物袋を片手に染まるナ
すし好す	お美がいい	「かがしまし声をう出ナナミ	帰り道に格別	ナミを見
よよし三	母味言人（男の	：いたをナナミ	二人。	ナミを見て笑顔になるハ
。うで人	さん	ナナミに渡し歩き出すハ	コロッケを頬張り。	チ
普かす。	いってから	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	のぼり。	
通？ね	のた物に	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
は	に「を	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
見	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
て	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
み	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
ぬ	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
フ	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
リ	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		
を	（ハナナミに渡し歩き出すハ）	（ハナナミに渡し歩き出すハ）		

由衣「あ、意外と奔放なんだとか思つたでしょ？違うからね。二つ上の先輩と純愛でちやんと結婚しましたから」ナナミ「そつか：（微笑）じゃあ幸せなんだ」由衣「だつたんだけどねえ：」ナナミ「？」由衣「去年、旦那が病氣で死んじやつて。今はシングルマザー未亡人やつてます」ナナミ「：（複雑な顔）」ナナミ「：大変だつたね」由衣「（笑つて）そんな顔しないでよ。幸せなんだよ。子供がいるからさ」ナナミ「：大変だつたね」由衣「大変だつたよお！そりやあもう！ああ、死んじやおうかな、娘も一緒につて、本気で考えたもんね」ナナミ「：」由衣「でもさ、夜子供の寝顔見て思うの。この子の明日を一緒に生きてあげなきやつて。この子と一緒に明日も生きようつて」ナナミ「：」由衣「大学中退して友達も離れてつて見放されて旦那には先に逝かれてつてナナミと久しぶりに会えて、なんか勝手に、すつごく救われた気持ちになつたの。あ、ごめんね、重いよね（笑う）」ナナミ「ううん：そつか：頑張つたね、由衣紙ナップキンで鼻をかむ由衣。そんな由衣を見つめて思うナナミ。由衣「（笑顔で）ほら、なんか甘いもの食べよ！」ナナミ「うん」

ハチオ「？」
ナナミ「（ハチオを見て）やつぱり死のうと思
います、私は」
ハチオ「どうしてですか？あ、言いたくなけ
れば：」
ナナミ「言いたいんで。言います。久しぶり
に小学生の頃の友達に会ったんです。私は
あの頃なんて最悪で思い出したくもない
ことばかりで。でも、友達は私との思い
出をとてもいい思い出として話してて。そ

ナハナナミ「今言いかけてたんですけど」
ナチオ「あ、すいません。ごめんなさい」
ミオ「別にハチオさんには話すようないこと

ハチオ一：何かありました？って質問つてどういう意味ですか？何かありました？ってそりや何かはありましたよ？

外出たし、パフェ食べたし、ドリンクバー！

5周したし、帰り道にめちゃくちゃでかい

シベリアンハスキー見ましたし

ハチオ「なにかあつたんですね？」

ナミ「いえ別に：何かありました？」

ナミ「（俯いて）：なんか」

ハチオ「あ、言いたくなれば言わなくとも

ナナミ「スマホ使えました？」
ハチオ「ええなんとか。ナナミさんに連絡するくらいはできそうです」
ナナミ「そうですか」
ナナミの挙動で何かを感じるハチオ

ナナミ（声）「ただいま」
写真から目を逸らしクイックルワイ
パイをかけだすハチオ。
扉が開きナナミが入つてくる。

ナ ハ ナ ナ ハ ナ
ん ナ る ナ チ ナ し ナ ○
で ミ ん ミ オ ミ た ミ カ
し 「 で 「 「 「 ♪ 「 ラ
よ ハ 呆 デ 。 ジ お あ 点 ハ あ 凍 嘴 歌 津 オ
う チ れ ン 1 ヨ 上 一 数 チ ↗え 然 つ 軽 ケ
ね オ て モ 0 イ 手 全 が オ あ そ と て 海 ボ
? さ 笑 ク 0 サ で 然 出 ↗う し い 峠 ツ
「 ん う で 点 ウ し ダ る 全 津 な て る 冬 ク
は ハ 次 取 ン た メ 。 力 軽 カ そ ナ 景 ス
カ チ の る ド よ で 8 で 海 モ れ ナ 色
ラ オ 曲 ま 8 「 ! 点 手 冬 見 見 。 気
オ ケ 探 死 6 「 。 。 景 つ て 持
で す 点 つ 色 め い ち
何 ナ ま 泣 る よ
歌 ナ せ い ハ さ
つ ミ 。 ん て チ そ
て た ミ 。 ん て 言 つ
た ！ 」

ハ ナ ハ ナ ハ ○
チ さ に ナ に チ い ナ ハ ナ ハ ○
オ ん な ミ な オ と ミ オ ミ オ パ
「 も れ 「 つ 「 思 「 こ 黙 「 「 ナ ハ ナ ハ ○
引 下 ハ わ 早 ば こ て ナ ナ い ド れ 「 「 ナ ハ ナ ハ ○
い 品 チ く な う ま ナ ナ ま う 々 た あ 置 「 「 ナ ハ ナ ハ ○
て に オ 分 す る い す ミ ミ す や ど と だ : カ ブ リ ハ
い 食 も カ ご ほ う 「 さ の よ つ う 食 き 「 れ ブ リ ハ
る べ 食 り い ど の ん 口 「 て や べ ま る 席
. る ら ま い こ は 、 の つ つ 始 す 大 き に 座
二 い ま し た イ 口 周 て て め 「
人 つ た イ 口 周 て て め 「
に く 「 な い 口 周 て て め 「
周 囲 の 周 て て め 「
周 围 の 客 が 少 い オ

言 ナ チ
つ ミ オ
て 「 「 「
ん 自 :
す 分 買
か が つ
. 誰 て
行 か あ
き も げ
ま 分 ま
す か し
よ う う
い か
無 ?
一
文
が
何

○ 熱氣球
バーナーから火が噴き出て気球が浮かび出す。
テンションが上がるナナミと怖がつて
いるハチオ。
「なんですかこれ!! 怖い!!」
ナナミが到達地点でストップする。
「熱気球です！」一度乗つてみたかった。
「うわあ：すごい！」
「神々しく昇つている朝日に見惚れて
ナナミです！」

○ 上田の靈園
一ノ瀬家の墓の墓跡を掃除用具で墓
を洗つて いるナナミとハチオ。
ナナミ「よし、綺麗になつた。もうすぐ私も
入るから綺麗にしとかないと」
ハチオ「でも、崖から飛ぶところには入れな
いんじや：」
ナナミ「あ：まあでも、魂的なそれはここに
宿るようになんとか頑張るんで、それは」
ナナミ、墓に手を合わせ黙祷する。
ハチオもそれに倣う。

香苗「すごい偶然！あれ？もしかして彼氏？」
ナナミ「そんななんじやないよ。友達」
誠「こんなには。久々だね一ノ瀬さん」
ナナミ「：ども」

香苗「結婚した途端にどこにも連れて行つて、くれなくなつたのよ。だから腹たつちやつて、今日は強制的に遊園地デー！」

C

ナナミの横顔を見ているハチオ。
ナナミ「…（視線は朝日に向いたまま）あの、
こんな朝日ってなかなか見れない貴重な
朝日なんで、目に焼き付けた方がいいと思
いますけど」

ハチオ「（ナナミを見ながら）そうですね。目
に焼き付けます」

ナナミ、恥ずかしそうにハチオ側の
横顔を手で隠す。

「あ、ちょっと、なんですか？」

「私の顔は見せ物じゃないですよ」

「でも綺麗ですよ」

「痛つ！」

「…（ハチオを蹴る）

「ちよ、搖れます！怖い！」

○ 誠 「ぶつちやけるとき、俺、一ノ瀬ナナミの元力なんだよね」
警察署・外観(夜) サイレンが鳴っている所轄署。

誠を睨むハチオ。
「だから身をもつて分かるわけ。ナナミちゃんはやめといた方がいい。めんどくさいからあこの子。まだ男女の関係になつてない今まで。先輩からの忠告：」
ハチオ、誠の顔面を殴り飛ばす。
倒れた誠に馬乗りになり顔を何度も殴りつけられた。先輩からの忠告：」
殴りつける。周りの客も騒然。
ナナミがやつてくる。
ナナミ「ハチオさん！？ちょっと！やめて！」
必死にハチオを止めようとするが止まらず殴り続けるハチオ。

近衛（声）「朔田慎之助。23歳。東村山出身。
血液型はB型。両親は彼が小学2年生の頃
に離婚し、それからは母一人子一人で仲睦
まじく暮らしていたそうです」

立ち止まり空を見上げる。

雨が降り始める。

ハチオ、濡れながらトボトボ歩く。

近衛（声）「学業優秀で品行方正。周辺の人た
ちに評判を聞いても、彼のことを悪く言う
人は誰もいませんでした。そんな息子を育

○回憶・病室
寝たきりの母の横でひらがなボードを持ち笑顔で話しかけている慎之助（声）「彼は嬉しくて、母とコミュニケーションをとろうとしたそうです：」
近衛（声）「彼は嬉しくて、母とコミュニケーションをとろうとしたそうでした」という言葉が、母の口から出る。慎之助は、母の横でひらがなボードを持ち、笑顔で話しかけている。
慎之助「母さん、どうして欲しい？何か欲し
いものある？」

○ ナナミの部屋
近衛（声）「慎之助くんは延命治療を求める。靴を気持ち悪そうに脱いでいる。
た。大学を退学し、母と同じように朝から夕方まで働き、夕食は母を見舞いながら食べ、夜また働きに出る。そんな毎日が1年半ほど続きました」
近衛（声）「そんなある日、夕食を食べているハチオ、リビングに入つてナナミの両親の写真に手を合わす。
と、母親の手が動いたのだといふんです」
寒気がして震えるハチオ。

○ 喫茶店 窓の外は大雨が降っている。
近衛「朝から夕方まで働いて、息子と一緒に夕食を食べてまた働きに出る毎日だつたそうです。そうして息子を大学に入れることができた。生活環境は何不自由なもので、きっと家がシングルマザーだからといふ後ろめたさを息子さんに味合わせたくなかつたんでしょう」
ナナミ「そんな親子なのに：殺したんですねか？」
近衛「（頷く）：ある日、母親がパート先の工場で事故にあいました。頭を強く打つてしまい脳を損傷。遷延性意識障害、つまり植物状態と診断されました」

てあげた母親もまた立派な女性でした」

<p>○ 道路 雨の中傘をさし歩くナナミとハチオ。</p> <p>ナナミ「…い分ナ：い個（聞瀬今雨、瀬にミうナ追しまでに強く。傘ミすほと昧なんの話、降り窓、つ。情く哀しみを持遠ねがて頭つ自由か聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。「いはをた由聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。 たかハラチ傘そのるに「…こげとすね。大丈とこ夫めかしきこと執れ雨」 オをさ思まんてとすかてつなうは行 歩いナまれてすなうは行 てナきてまきてまうは行 きミてのまきてまうは行</p>	<p>○ 近衛（声）「母親がこの一年半頼つていたのは、自身の死だつた。その後、慎之助くんは母親の呼吸器のスイッチを切りました」</p> <p>近衛「かミ一「ミ」「一後き裁窓喫茶店」</p> <p>近衛のナも衛ナ衛りが衛</p>	<p>慎之助「し、な、せ、て：」</p> <p>「…い個（聞瀬今雨、瀬にミうナ追しまでに強く。傘ミすほと昧なんの話、降り窓、つ。情く哀しみを持遠ねがて頭つ自由か聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。「いはをた由聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。 たかハラチ傘そのるに「…こげとすね。大丈とこ夫めかしきこと執れ雨」 オをさ思まんてとすかてつなうは行 歩いナまれてすなうは行 てナきてまきてまうは行 きミてのまきてまうは行</p>	<p>慎之助「て」</p> <p>「…い個（聞瀬今雨、瀬にミうナ追しまでに強く。傘ミすほと昧なんの話、降り窓、つ。情く哀しみを持遠ねがて頭つ自由か聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。「いはをた由聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。 たかハラチ傘そのるに「…こげとすね。大丈とこ夫めかしきこと執れ雨」 オをさ思まんてとすかてつなうは行 歩いナまれてすなうは行 てナきてまきてまうは行 きミてのまきてまうは行</p>	<p>慎之助「…な」</p> <p>「…い個（聞瀬今雨、瀬にミうナ追しまでに強く。傘ミすほと昧なんの話、降り窓、つ。情く哀しみを持遠ねがて頭つ自由か聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。「いはをた由聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。 たかハラチ傘そのるに「…こげとすね。大丈とこ夫めかしきこと執れ雨」 オをさ思まんてとすかてつなうは行 歩いナまれてすなうは行 てナきてまきてまうは行 きミてのまきてまうは行</p>	<p>慎之助「…な」</p> <p>「…い個（聞瀬今雨、瀬にミうナ追しまでに強く。傘ミすほと昧なんの話、降り窓、つ。情く哀しみを持遠ねがて頭つ自由か聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。「いはをた由聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。 たかハラチ傘そのるに「…こげとすね。大丈とこ夫めかしきこと執れ雨」 オをさ思まんてとすかてつなうは行 歩いナまれてすなうは行 てナきてまきてまうは行 きミてのまきてまうは行</p>	<p>慎之助「…な」</p> <p>「…い個（聞瀬今雨、瀬にミうナ追しまでに強く。傘ミすほと昧なんの話、降り窓、つ。情く哀しみを持遠ねがて頭つ自由か聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。「いはをた由聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。 たかハラチ傘そのるに「…こげとすね。大丈とこ夫めかしきこと執れ雨」 オをさ思まんてとすかてつなうは行 歩いナまれてすなうは行 てナきてまきてまうは行 きミてのまきてまうは行</p>	<p>慎之助「…な」</p> <p>「…い個（聞瀬今雨、瀬にミうナ追しまでに強く。傘ミすほと昧なんの話、降り窓、つ。情く哀しみを持遠ねがて頭つ自由か聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。「いはをた由聞かれて？」外も何も崖状打ちつく。 たかハラチ傘そのるに「…こげとすね。大丈とこ夫めかしきこと執れ雨」 オをさ思まんてとすかてつなうは行 歩いナまれてすなうは行 てナきてまきてまうは行 きミてのまきてまうは行</p>
---	---	---	--	---	---	---	---

二人「（同時に）あの」
ハチオ「あ、どうぞ」
ナナミ「あ、はい。あの：なんで殴つたりな
んかしたんですか？あいつのこと」
ハチオ「：なんでだつけ。（笑つて）忘れちゃ
いました」
ナナミ「なんでも忘れたふりする癖ついてま
すね。記憶喪失で性格悪いなんて目も当て
られないですよ」
ハチオ「すいません。ごめんなさい」
ナナミ「謝罪とかいいんで。理由教えてくだ
さい」
ハチオ「：ナナミさんの話をされて。なんか
悪口みたいこと言われたので。あと、男
女の関係だったみたいこと言われて：男
気づいたら殴つちやつてました」
ナナミ「：それつて、その、つまり：嫉妬つ
てやつですか？」
ハチオ「シット：つてなんですか？」
ナナミ「もういいです」
ハチオ「あ、怒つてます？」
ナナミ「（立ち止まり）怒つてます。ハチオさ
ん関係ないじやないですか？関係ないの
に手なんか出して。そういうのが一番嫌い
なんですね。夏の甲子園で負けたチームのア
ルプススタンドの女子がめちゃくちゃ泣
いてるのあるじやないですか？いやいや、
あんたたち、球児たちが汗水流して練習し
てる横通り過ぎて毎日帰つてたじやん。涙し
流す資格ないよ。関係ないじやんつて。そ
れと同じような気持ちです今。泣く権利は
る資格は、私にしかないんです！」
ハチオ「：すいません。ごめんなさい」
ナナミ「何でもすぐ謝るのやめてください！」
ナナミ「ありがとうございます。わざわざ」
二人とも何か言いたげな様子で歩く
ハチオ「いえいえ：」

ナナミ、足早に歩き始める。
ハチオ「あの！聞きましたか？僕のこと」
ナナミ「（立ち止まり振り返らず）：はい。少しですけど」
ハチオ「僕、どんな人でしたか？」
ナナミ「え、めちゃくちゃ普通でしたよ。めちゃくちゃ普通の、どこにでもいる平均的な一般男性のそれでしたけど」
ハチオ「そうですか。教えてもらつていですか？」
ナナミ「え、なんでですか？知りたいんですか？あんまり知りたくない感じでだったのに、やつぱり気になる感じですか？てゆうか、今更知る必要あります？一緒に死ぬんですよね？あ、ジエットコースター乗つて崖飛ぶの怖くなつた感じですか？大丈夫ですよ、きっとあれより怖くないんで」

晴れ渡る空。一軒家。表札に朔田とある。
ナナミ「あ、ここです。見覚えは？」
スマホを見ながら歩いてくる二人。
ハチオ「（首を振る）立派なお家ですね」
ナナミ「鍵、近衛さんが手配してくれました。
入りまますか？」
ハチオ「はい」

ナナミの顔を見ると泣いている。
ハチオ「泣かないでください」
ナナミ「泣いてないです。これ、雨ですから」
ハチオ「ナナミさんが悲しいと、僕も悲しいです」
ナナミ「別に悲しくないって。泣いてないし」
ハチオ、自分の傘も開いたまま地面に置き、ナナミをぎこちなく抱きしめる。
雨の中、開けた傘が二つと抱き合っている二人。
ナナミ「いいじゃないですか。実際変な二人」
ハチオ「いいじゃないですか。実際変な二人」
ナナミ「一緒に変にしないでください」
ハチオ「ナナミさんも十分変ですよ。これから死のうって人がミルクティー買いま
ナナミ「あれは：これから死のうってときは全部の枕詞が：人生最後の：になるんですよ？」
ハチオ「人生最後の自販機で買う飲み物でミルクティー選ぶのって、別に人によつては自然なことだと思いますけど」
ナナミ「めんがうどくさい？」
ハチオ「ああ、本当だ」
ナナミ「何がうどくさい？」
ハチオ「うん？」
ナナミ「雨は降り続く二人です」
ハチオ「抱き合っている二人です」
ナナミ「抱き合っている二人です」

朔田家
玄関から入つてくる二人。
暗い玄関。
「（ハチオに）あ、お邪魔します」
「あ、どうぞ」
ナナミ、玄関先に男性用のスニーカーと、女性用のパンプスがあるのに気づく。
「あ、これ、たぶん母のですね」
ハチオ、パンプスを手に取り喰ぐ。
「何してんすか？」
ハチオ、「あ、いや、嗅覚から記憶が目覚める。それって過去に喰いだことある匂い出すってことですかよね？お母さんのパンプス喰いで記憶戻つたら、日常的にますよ。」
お母さん、大丈夫です。何も思い出せなかつていい。大変態だつたことになりますよ」
ハチオも各部屋を覗くナナミ。
二人、靴を脱いである。
各部屋を覗くナナミ。
生活感が残つてゐる各部屋。
ハチオも各部屋を覗き、さまざまに触れているが何も思い出せない。
口ナナイ様子で首吊り自殺を試みた名残が

ナナミ「：大丈夫そうですか？中に入った途端に全部思い出して急にサイコパスキラ一になつて襲つてくるようなアメリカンホラー的な展開になつたら嫌ですよ。やめとくなら今ですよ」

ハチオ「ならないと思ひますよ（笑う）でも、万が一そうなつたら全力で逃げてください」

ハナハナ	ナ	ハナナハ	ハナ	ハナナハ	ナハナ
チナチナ	いナ	チナナチ	好きチ	チナ	チナ
オミオミ	ブでミ	オミミオ	だオ	オミ	オミ
「――」	オす「	「――」	「――」	「――」	「――」
ナハど？ど：じつの振イねや残キ食ナああナ大あが食リビ ナチう」うハつて端りル。つがツ材ナ、ナ変あた卓に× ミオししチといに返なほば見チやミは冷ミだ：く周り 、ててオ遺るありんらり受ン調、い蔵、つなん入る二人。 ハ膝：さん骨。るハて、けを味冷。庫冷たんある。ゴミや洗つてない食器	ハチオ、部屋を見回し、物に触れる。 （苦笑）うまく言えません」	（なんだか：僕が好きだったものを好きだつたものは、 なんか、ややこしいですね）	青年男性らしい部屋。	青年男性らしい部屋。	青年男性らしい部屋。
チオ：なんと？遺影を見易祭壇の前、リビングに立 から崩れ落ちて泣く。	母チ料理好キストラバージンオリ	易祭壇と、リビングに立 ていた名	易祭壇と、リビングに立 ていた名	易祭壇と、リビングに立 ていた名	易祭壇と、リビングに立 ていた名
に駆け寄り寄り添う。	工日常的見るが開けられると、料理をしてみた のを見きしか買わな：	工日常的見るが開けられると、料理をしてみた のを見きしか買わな：	工日常的見るが開けられると、料理をしてみた のを見きしか買わな：	工日常的見るが開けられると、料理をしてみた のを見きしか買わな：	工日常的見るが開けられると、料理をしてみた のを見きしか買わな：

ハナハナ チンナえチナ オツミテオミ 「て「み」「 食い感すまナうな机×使し歯洗×で顔おあチ寝匂キ眠ミ べたじごしナわどに用考ブ面「洗は、オぼいツつ 始だでいたミあの並しえラ台つよおがけをチテ部 めきすで「さ」朝ベ磨てシでてうは料眼感ンい屋 るま！すん定られ×き、に顔×きごよ理でじでる（ 二すい！が食れ始無歯をてざうをキ嗅何ナ朝） 人「たこ言。るめ駄磨洗くいごしつぎかナ 。だれつ焼き×。大粉ナ×だまざてチなをミ。 きぞてた鮭量をナい「まるのらい ます日本的一出ミ。す。方起て す人納豆歯磨ときも「をきい のの朝味ときう覗るる 朝全豆磨ときすくナ音 ごは全部噌汁粉にすぐとナ。 はは揃少でハミ。	○	ナ訳こしつけせつ知チ ミなとかたじなてつオ 「い、つこやいもて「 フにタハ：「思たことな！、も思 エ支日チ「いこと、い思 一えがオ出とか、い思 ド合差のしと、樂出 アうし慟たか嬉しか ウニ込哭い、しかつた ト人むがのそかつた 。部響にうつたこと 屋く。にいきたことに 母うことと、見ても、愛され に思ことと、何てが いことか、辛いもたあ 母出か、笑こ思のつ にし、笑こ思のつ 申た美いといかた しい味あだ出知か
--	---	---

「に乗せる。ナナミ「メロンパンですか」ハチオ「メロン食べたいなあつて」ナナミ「え、そうなんですか？」ハチオ「メロンパンつてメロンが入つてるわけじやないですよ?」ナナミ「メロンパンつてメロンが入つてるわナナミ「でも美味しいですよ」ハチオ「メロン:」ナナミ「メロント:」ハチオ「メロント:」ナナミ「嬉しい」ハチオ「嬉しい」ナナミ「はい:メロン:」ハチオ「はい:メロン:」ナナミ、レジに来て呼び鈴を鳴らす。奥から制服を着た由衣がやつてくる。ナナミ「うん」由衣「はい、お待たせしました:あ、ナナミ!」ナナミ「うん」由衣「あれ、お待たせしました:あ、ナナミ!」ナナミ「嬉しい。ありがと。このパン全部美ナナミ「嬉しいんだよ」由衣「あれ、あの外にいる人つてもしかして、ナナミ「これも美味しそうで悩んじゃつた」由衣、店の外でナナミを覗き見ているハチオを見つける。ナナミ「このあとはケータイショップ?」由衣「うん。娘のために頑張つて稼がなきや。メロンパンとミックサンドで550円です」由衣「あらあ、いいねいいね!お熱いねえ」ナナミ「:まあね」由衣「え?どした?」ナナミ「:ありがと、由衣ちゃん。私のこと、覚えてくれて。忘れないでいてくれて」ナナミ「どういたしまして」由衣「え?どした?」ナナミ「:ありがと、由衣ちゃん。私のこと、覚えてくれて。忘れないでいてくれて」ナナミ「パンを受け取り歩いていく。

○ 食堂『海坊主』 ハチオミ 「そうですね」 まるナナミ。 通りを歩く二人。
ナナミ 「なんか食べていいます?」 唯一営業している食堂の前で立ち止
寂れた商店街。

バス停で、二人がバスを見送っている。

ナナミ「たぶん足りません。知りませんけど、
てゆうか高所恐怖症なのに宇宙旅行って」
ハチオ「そこまでいくと大丈夫かなって」
ナナミ「でも、そこまでいくまでの過程は怖
いですよ。ジェットコースターなんて比じ
やないですよ」
ハチオ「あー：じゃあ、定食の味噌汁を豚汁
に変更するくらいにしきます」

ハチオ「そうですね、宇宙旅行とかですかね」
ナナミ「それ3億じゃ無理じゃないですかね」
ハチオ「え、宇宙旅行ってそんなに高いんで
すか」

ハチオ「ナナミさん、つまんないですか」
ナナミ「じゃあ、ハチオさんはどう使います、

3 億円当たつたらつて話ですよ？」
ナナミ「でも、そんなに欲しいものもないで
すよ。せいぜい塩タンを上塩タンにしたり、
ちよつとした距離でもタクシー乗つたり、
ボルペン買うときにはどうせあんまり使
わないのに4色のやつ買つたりするくら

前方にお婆さんが座つているだけの空いてる車内。二人。バスの後部座席に並んで座つている

黙々と海鮮丼を食べているハチオ。

八重子「あんたは？思い出せたの？」

ハチオ「へ？ああ、いやあ、なんにも。自分のこと色々と知れたは知れたんですけど、思い出せてはないです（海鮮丼を食べる）」

八重子「呆れたねえ。それなのにあんた死ぬの？」

ハチオ「（咀嚼しながら）そうですね。きっと僕は死にたいんです。それも忘れちゃつてますけど」

八重子と島村が吹き出して笑う。

島村「あんたら、変わつてんな。死ね死ね」

八重子「冥土の土産にプリンサービスするよ」

ナナミとハチオもつられて笑う。

松浦「（ナナミに）あのぉ……」

ナナミ「？」

松浦「こないだあんた来たとき、海鮮丼食べたつけ？」

ナナミ「いや、食べてないと思いませんけど」

松浦「やつぱり！？作造さん、海鮮丼食べてないって！」

作造「あんた、確かラーメン食つてたよな？」

ナナミ「はい」

八重子「なんだいあんたたち」

松浦「いや、こないだのこの人の食べたのも数に入れちやつてたけど、よく考えたらあんときは死ななかつたわけだからノーカウントになるでしょ？」で、今日の海鮮丼2はカウントされるということは：」

作造「（ノートに書き）海鮮丼が単独首位だ！」

松浦「やつた！」

ハチオ「なんですかそれ？」

ナナミ「おう、これ見てみろ」

ハチオ。ノートを囲む作造と松浦と八重子と

島村「不謹慎な遊びですね」

ナナミ「不謹慎な遊びですね」

島村「不謹慎なあ：生きるも死ぬも、他人から見たら遊びみたいなもんつちゅうことだ。生き死になんて、そんなに思い詰める」とじやねえのかもしれんな」

ナハ	ナハ	ナハナ		ナ	ハナ	ナハナハ	○	ナ
かすナチいけナチらナチナ				ナ	チナ	さナなチナチ		かナ
つ。ミオちでミオつミオミ				ミ	オミ	すミつオミオ	崖	るミ
たガ「やし」て「				「	「	ぎ		よ「
でシ北なつたでいあ私はハ始お海切とナ：				よ』通ナ	そ：到ナ	いきおそ楽く風		賑う：
すヤ極んて。もえりのいチめ互をりうナ				う心知ナ	う戻着ナ	よま腹うしこ		やな確
。ポでで「こ、がや」オるい眺ス』ミ、				だ配にミ	でっするミ	いしまいでか人吹		か気か
ドンオすこま楽とりさ。	にめマと、	いだ由、		いだ由、	すてるが	よたつすつ。き		にがに
レをいか来だしう残ん	目るホ入返	『か衣ス	ねき二	以前	つぱねた	荒ぶ道を		盛します
ス空口？るまかごし	線二を力信	とらかマ：	二人	立つて	い	断崖絶壁に		上がります
コにラ「まだつざた	を人ボしに	まし。	。立	とき	です。	に向		がつて
丨ながでやたいこ	水。ケ、『	あ時らホ	。立つて	です。	すね	け歩		いる店
ドる見にりでまと、	平ツ送ご	る間のを	いた	よ?	なんだか			内。
とまでど残すし、	線ト信め	。あ着取り	断崖絶壁に	緊張感	眠たく			なんか分
かでみんし「た付	にせん	る信り出	に	感無				
あ回たどた「き	に向	とと出	に					
るしかんこ合	しずね。	きラし見	に					
れてつ思とつ	まに。	にライ見	に					
スみたいだても	う電あり	連ン見る。	連					
トたでつらも	。源り	絡で。	絡					
	話し	をが	ちの					

ナナミ「あ、謝った。殺します」
ハチオ「：本当に、綺麗ですねえ」
二人、さつきと同じく並んで立つ。
夕日を見つめる二人。
ハチオ、「何かに気づき自分の手を見る。」
ナナミに握られた手。
ナナミを見る。
ナナミ「（夕日を見つめたまま）：やっぱり…」
ちよつと、生きましょうか」
ハチオ「：（微笑み）はい」
ナナミ「あ、ほんとに：ちよつとだけ：です」
けどね」「（頷き）はい」
手を握り合った二人が水平線に落ち
ていく夕日を眺めている。
ハチオ「（ナナミを見て）あ、海鮮丼」
ナナミ「（ハチオを見て）あ」

おしめい

なし参考文献】